平成25年7月18日

殿

公益財団法人　日本農業研究所
理事長　岸　　康彦

第26回（平成25年度）「日本農業研究所賞」受賞候補者推薦御依頼

謹啓　愈々御清適のことと大慶に存じあげます。

さて、本研究所は、昭和４０年度より「日本農業研究所賞」を設け、わが国農業の発展のため学術研究上の顕著な貢献をなした方に対して、表彰の事業を行って参りました。平成２５年４月１日には、公益財団法人へ移行いたしました。定款第３条の規定に基づき、引き続きこの事業を行って参ります。

本賞の目的とするところは、別添「日本農業研究所賞表彰規程」に明記されているとおり、わが国農業の発展のため、学術研究上顕著な貢献をなした者を表彰し、その研究業績が今後の農業の発展はもとより、豊かな食生活の形成や農山村の活性化等にも貢献することを期待しようとするものであります。

このような表彰の趣旨に即し、かつ、優れた業績をなるべく広く表彰することにしたいと考えております。したがって、過去において既に国際的な賞、日本学士院賞などの大賞を受けた業績は、原則としてこの賞の対象から除外するよう取り計らい、できるだけ幅広く候補者の御推薦を頂くよう期待するものであります。

なお、この表彰は隔年ごとに行い、それぞれ３件以内(注)につき行っております（賞金として、１件につき１００万円贈与します）。

以上により、平成２５年度（第２６回表彰）の受賞候補者の募集をいたしたく、御多用中恐縮に存じますが、候補者を御推薦下さるよう御願い申し上げます。

なお、御依頼先が、学会、団体等の機関の長等である場合には、機関としての御推薦である必要はなく、その機関の会員等、当該機関に属する個人の資格において御推薦を頂くことも差し支えありませんので念のため申し添えます。

(注)選考の結果、受賞該当者が３件に達しないこともあります。

敬具

［要領］

１．御推薦は、１件ずつ、同封の受賞候補者推薦書の各欄に記入の上、御送り頂きます。送付方法は、推薦書の様式が日本農業研究所ホームページ（http://www.nohken.or.jp/）から入手できますので、御記入の上、捺印し、郵送して下さい。併せて推薦書の電子ファイル（ワード形式又は一太郎形式）でkenkyu@nonken.or.jpのアドレスにお送り下さい。

２．御推薦の対象に共同研究者を上げる場合は、その理由を明記して下さい。

３．御推薦者（又は代理者）には、①選考上必要な場合に研究業績に関する資料の提出又は②選考委員会に御出席願い受賞候補者の業績紹介を行って頂くことがあります。

４．推薦書は、平成25年11月30日までに到着するよう御送り下さい。

５．推薦書の送り先　〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町３番29号
公益財団法人　日本農業研究所

『日本農業研究所賞』案内

東京都千代田区紀尾井町３番29号
公益財団法人　日本農業研究所
電話：０３－３２６２－６３５１
FAX ：０３－３２６２－６３５５
http:/www.nohken.or.jp

１．公益財団法人日本農業研究所定款（抄）

第１章　総則

（名称）

第１条　この法人は、公益財団法人日本農業研究所（以下「研究所」という。）と称する。

（事務所）

第２条　研究所は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

第２章　目的及び事業

（目的）

第３条　研究所は、農業及び農村に関し、必要な調査研究を行うとともに、その成果を普及することにより、学術及び国民経済の発展に貢献することを目的とする。

（事業）

第４条　研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）農業及び農村に関する調査研究

（２）農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

（３）農業及び農村に関する調査研究の助成

（４）農業及び農村に関する学術研究上の顕著な貢献をした者の表彰

（５）不動産の貸付け

（６）その他研究所の目的を達成するために必要な事業

２　前項に掲げる事業は、日本全国において行うものとする。

（以下省略）

２．理事および監事

理事長	岸　康彦		
常務理事	田家邦明		
理　事	岩元睦夫	小澤健二	木村　滋
	菅野　茂	鈴木昭憲	竹内克伸
	時子山ひろみ	松本　聰	八木宏典
監　事	南波利昭	吉國　隆	

３．日本農業研究所賞表彰規程

制定　昭和40年 6月25日
改正　昭和41年 6月28日
　　昭和46年 1月20日
　　昭和59年 8月31日
　　平成13年 6月 1日
　　平成25年 4月 1日

第１条　公益財団法人日本農業研究所定款第45条の規定に基づき、本規程を定める。

第２条　日本農業研究所（以下「本所」という。）は、農業に関する学術研究上顕著な業績をあげ、斯学の発展に多大の貢献をなした者を表彰するため、その者に対し、日本農業研究所賞（以下「本賞」という。）を授与する。

第３条　本賞は、賞状及び賞金とし、賞金の額は、１件につき100万円とする。

２　共同研究の場合の賞金の額は、第１項の賞金の額と同額とする。

第４条　本賞の授与は、隔年、３件以内につきこれを行う。

第５条　本所は、本賞受賞候補者（以下「候補者」という。）を広く求める趣旨により、農学に関する学会・大学・研究機関・団体および個人に対し候補者の推薦を依頼するものとする。

第６条　本所に、候補者を選考し決定するため、公益財団法人日本農業研究所賞受賞候補者選考委員会（以下「選考委員会」という。）をおく。

２　選考委員会は、10人以上15人以内の委員をもって組織する。

３　委員の委嘱は、選考の都度広く学識経験のある者のうちから、理事会の議を経て理事長が行う。その場合、理事長および理事以外の学識経験者が半数以上を占めるものとする。

４　選考委員会には、委員の互選により委員長１人をおく。

第７条　理事長は、当該年度の６月以降選考委員会を招集するものとする。

第８条　選考委員会は、必要に応じ、理事長と協議のうえ、専門委員を委嘱して特別の事項を審議させることができる。

第９条　委員および専門委員は、審査の経過を外部にもらしてはならない。

第10条　選考委員会の決定は、委員の３分の２以上の出席により、出席した委員の過半数をもって行うものとし、可否同数のときは委員長の決するところによる。

第11条　理事会は、選考委員会の報告に基づき、本賞の受賞者を決定する。

第12条　理事長は、当該年度の３月末日までに選考の結果を公表する。

第13条　本賞の受賞者の表彰式は、原則として、５月10日に行う。

第14条　この規程の施行についての細則は、別に定める。

日本農業研究所賞受賞者一覧（第１回～25回）

第１回（昭和４０年度）
大　槻　正　男：農家の経済構造ならびに経済活動に関する研究

第２回（昭和４１年度）
石　塚　喜　明
田　中　　明
（共同研究）：作物、特に水稲の栄養生理に関する研究

第３回（昭和４２年度）
西　川　義　正：家畜の繁殖ならびに人工授精に関する研究

第４回（昭和４３年度）
田　島　弥太郎：蚕の放射線遺伝学的研究とその応用

第５回（昭和４６年度）
上　坂　章　次：和牛の生産能力に関する基礎的ならびに応用的研究
松　島　省　三：水稲収量の成立理論とその応用に関する研究
定　盛　昌　助：リンゴの優良品種ふじの育成に関する研究

第６回（昭和４８年度）
高　橋　治　助：アジアにおける水稲の栄養生理的解析による多収技術の確立
有　馬　　啓：Mucor　Rennin の発見と研究
笠　原　安　夫：耕地雑草およびその防除に関する研究

第７回（昭和５０年度）
近　藤　康　男：日本農業の経済学的研究
嵐　　嘉　一：水稲栽培技術体系の暖地的展開とその史的考証
細　田　達　雄：家畜の血液型とその応用に関する研究

第８回（昭和５２年度）
加　用　信　文：わが国における農業経済統計の確立
福　井　重　郎：ダイズの生理・生態学的並びに育種学的研究
大　森　常　良：牛の急性ウイルス病の防圧に関する研究

第９回（昭和５４年度）
福　田　紀　文
伊　藤　智　夫
：蚕の人工飼料の開発と実用化に関する研究
川　田　信一郎：わが国における作物栽培の実態解明に関する研究
丹羽　太左衛門：豚の繁殖と改良技術に関する研究

第１０回（昭和５６年度）
野　村　吉　利：ニューカッスル病に対する新免疫方法（Ｌ－Ｋ法）の開発
石　沢　修　一：本邦農地土壌の微生物学的研究
弥　富　喜　三：害虫の生物学的及び化学的防除に関する研究

第１１回（昭和５８年度）
石　墨　慶一郎：水稲の良質多収品種の育成
山　田　芳　雄：放射化分析およびアイソトープトレーサ法の植物栄養・土壌肥料研究への応用
西　野　　操：柑橘害虫ヤノネカイガラムシの発生予察ならびに生物的防除の研究

第１２回（昭和６０年度）
古　島　敏　雄：日本農業史の研究
江　崎　春　雄：穀類収穫機の開発に関する研究
西　　貞　夫：組織培養の利用による野菜・花き育種技術の開発

第１３回（昭和６２年度）
中　川　昭一郎：水田の用排水と圃場整備に関する研究
坂　井　健　吉：高でんぷん超多収甘藷品種の選抜法の開発および新品種の育成
杉　江　　佶：家畜の胚（受精卵）移植に関する技術開発研究

第１４回（平成元年度）
梶　井　　功：戦後日本の農業経済・農業経営の発展・変化にかんする研究
小　林　勝　利：蚕の内分泌学的研究とその応用
大　島　信　行：弱毒ウイルス利用による植物ウイルス病の防除

第１５回（平成３年度）
玉　木　佳　男：性フェロモンによる害虫防除に関する研究
阿　部　猛　夫：豚の系統造成法に関する研究とその実際的応用
増　田　澄　夫：二条大麦（ビール麦）及び六条大麦優良品種の育成

第１６回（平成５年度）
稲　葉　右　二：各種牛ウイルス病の防除技術の開発及び実用化に関する研究
飯　沼　二　郎：農業近代化の理論的・実証的研究
本　多　藤　雄：促成栽培用イチゴの栽培技術の開発と“はるのか”“とよのか”等優良品種の育成

第１７回（平成７年度）
岡　田　吉　美：わが国の植物ＤＮＡ研究における先駆的研究ならびに指導的活動
西　山　　壽：暖地における水稲優良品種の育成
早　瀬　達　郎
栗　原　　淳：環境にやさしい肥効調節型肥料の開発および施肥技術の確立

第１８回（平成９年度）
川　嶋　良　一：農業技術研究の推進方策に関する論考
江　塚　昭　典：イネの主要病害に対する品種抵抗性の先駆的研究とその利用技術の開発
入　谷　　明：家畜の繁殖ならびに体外受精に関する研究

第１９回（平成11年度）
石　橋　　晃：家禽のアミノ酸要求量に関する研究
貝　沼　圭　二：澱粉の高度利用化技術の開発に関する研究
内　嶋　善兵衛：農業生産における気候資源の利用技術の開発

第２０回（平成13年度）
尾　関　幸　男
佐々木　　宏：チホクコムギなど良質多収秋まき小麦品種の育成
清　水　悠紀臣：豚ウイルス病の防除法、特に生ワクチン開発に関わる基盤技術の確立
駒　田　　旦：フザリウム菌選択培地の創製とその応用によるフザリウム病の生態ならびに防除に関する研究

第２１回（平成15年度）
市　川　友　彦
杉　山　隆　夫：大型汎用コンバイン並びに超小型自脱コンバインの開発
岸　本　良　一：ウンカ類の海外長距離飛来の実証と防除技術の確立
真　鍋　　勝：食品のマイコトキシン汚染の解明と防除

第２２回（平成17年度）
西　浦　昌　男：カンキツ類の珠心胚利用及び交雑による新品種の育成
花　田　　章：未成熟卵子を利用した反すう家畜の体外受精技術の開発
春　見　隆　文：微生物・酵素を利用した新規糖質甘味料の製造技術

第２３回（平成19年度）
三　輪　睿太郎：食料供給に伴う窒素の動態と環境影響のシステム解析
森　　肇：カイコ多角体病ウイルスの構造解析と機能利用に関する研究
祖　田　　修：農学原論の確立

第２４回（平成21年度）
古　谷　　修：豚における栄養価評価法の開発とその応用
土　屋　七　郎
羽生田　忠　敬：リンゴわい性台木の先駆的研究とJM台木シリーズの育成
佐　伯　尚　美：米流通・米政策学と農協論の確立及び戦後日本農業政策に関する研究

第２５回（平成23年度）
阿　部　　亮：家畜飼料の栄養価評価法の確立と低・未利用資源の開発利用に関する研究
西　尾　敏　彦：新しい視点に立った我が国の農業技術史に関する研究
守　山　　弘：農村の二次的自然による生物多様性保全機能の解明と成果の普及

（第５回以降の受賞者氏名は推薦受付順）